

# 文語詩「椰子の実」 指導上の参考

## 子どもが興味を持つポイント

文語詩の中には、音楽の時間に口ずさんだ唱歌もある。詩として改めて読み直すと、意味がよくわからない言葉や今の言葉との違いに気づき、新しい発見を楽しむであろう。

## 言語活動の案

日頃、口語体の詩に慣れている子どもたちに文語体の詩の特徴をつかませたい。番組の中で紹介された文語詩の中から好きな詩を選び、書く活動を通して、言葉やリズムに着目させる。色紙などに書き写したり、イメージした絵をスケッチすると、作品の内容がより身近になる。暗唱に力を入れたら、暗唱発表会を開きたい。唱歌になっているものはメロディーを確かめ、独唱・合唱など、歌に合った形態で発表会をする。

## 指導例

### 【学習のねらい】

・「文語詩」に関心を持ち、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら、音読・暗唱を楽しむ。

### 【指導の流れ】

・(1)は基本展開、(2)(3)は扱う時間数や子どもの実態によって展開したい。

#### (1)「椰子の実」を音読や視写で楽しむ。

##### ＜番組視聴をする＞

1. 「椰子の実」の感想を発表する。
  - ・同じ詩でもいろいろな表現があることにふれたい。
2. 番組HPのワークシートを使い、音読し、意味のわからない言葉や昔の書き言葉を確認する。
3. 2行ずつの7連の構成や五七調のリズムを確認し、好きな連や言葉を発表する。
4. 「椰子の実」を書き写し、音読する。
  - ・メロディーを口ずさんでもよい。
  - ・全文を色紙に書いたり、好きな連を短冊などに書いたりする。イメージした絵を添えてもよい。



#### (2)音読・暗唱発表会を開き、楽しむ。

1. どんな発表会にするか決める。「椰子の実」の情景やリズムが伝わるように考える。  
(例)
  - ・暗唱をする。分担をしたり、群読などを取り入れたりする。
  - ・メロディーをつける。連ごとに独唱する分担を決めたりする。
  - ・イメージ画を添えて、音読をする。
2. グループ毎に発表する形態を選び、練習する。
3. 発表会をひらく。
  - ・それぞれの発表のよさを感じ合うようにする。



#### (3)他の文語詩を知り、文語詩への関心を広げる。

1. 他の文語詩を知る。
  - ・子どもの実態に応じて、他の文語詩と現代語訳を用意する。  
(例)唱歌「おぼろ月夜」「ふるさと」「赤とんぼ」「われは海の子」「花」など  
(例)島崎藤村「初恋」、北原白秋「落葉松」など
2. 現代語訳と合わせながら、意味のわからない言葉や文を確かめ、情景やリズムを感じ取る。
3. 好きな詩を選び、詩の世界を表現するために読み方や歌い方を工夫する。
  - ・グループ単位でもよい。
4. グループ相互に発表し合う。